

へいわ いの 平和を祈ろう

お づる しやうじよ し
～折り鶴の少女を知っていますか～

へいわ ねが こ はな お がみ はいふ
平和の願いが込められたお花の折り紙を配布します。

お がみ ひろしま へいわ きねんこうえん ぜんこく ささ お づる さいせいし
この折り紙は、広島市の平和記念公園に全国から捧げられた折り鶴の再生紙を
しやう ひとびと へいわ いの こ
使用しており、たくさんの方々の平和への祈りが込められています。

がつ にち もく
8月6日(木) 10:00 から

きへいとしやかんしやうめんげんかんふ きん せんそう へいわ ほん てんじ
喜平図書館正面玄関付近「戦争と平和の本」展示コーナーで

ちゅうがくせい じどう たいしやう せんちやく こ はいふ
中学生までの児童を対象に先着30個配布します

へいわ いの こ お づる しら
平和への祈りが込められた折り鶴のことを調べてみよう



「おりづるの旅 さだこの祈りをのせて」

うみのしほ／作 狩野富貴子／絵

けんきゆうじよ
PHP研究所



「生まれかわるヒロシマの折り鶴」

さとう ますみ ちよ
佐藤 真澄／著

ちやうぶんしや
汐文社

ひろしま へいわ きねんこうえん ぜんこく お づる とど なぜ広島市の平和記念公園には全国から折り鶴が届くのだろう

きっかけは佐々木禎子さんという少女です。佐々木禎子さん(当時12歳)は、2歳のときに被爆しましたが外傷もなく、その後元気に成長しました。しかし、9年後の小学校6年生の秋(昭和29年・1954年)に突然、病のきざしが現れ、翌年2月に白血病と診断され広島赤十字病院に入院しました。回復を願って包み紙などで鶴を折り続けましたが、8か月の闘病生活の後、昭和30年(1955年)10月25日に亡くなりました。禎子さんの死をきっかけに、原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め平和を築くための像をつくろうという運動が始まり、全国からの募金で平和記念公園内に「原爆の子の像」が完成しました。その後この話は世界に広がり、今も「原爆の子の像」には日本国内をはじめ世界各国から折り鶴が捧げられ、その数は年間約1千万羽、重さにして約10トンにもものぼります。